

# 二〇一九年度の主な活動

## 人権・同和教育講演会

とき 二〇一九年七月三十一日(水)

ところ 高松市生涯学習センター(まなびCAN)かん多目的ホール

約二百名の参加者のなか、高田美樹さん(「人権Take Root」啓発担当チーフフェロー)から「出会いから学ぶ」という演題のもと部落差別解消に向けた御講演をいただきました。

高田さんは、御自身や御家族の被差別体験や様々な出会いから学んだ差別との向き合い方についてお話されました。そのなかに、高田さんの生まれ育った場所が被差別部落かどうかで、相手のそれまでの対応が激変したという話がありました。(介護施設に入所している方とそこで働く高田さんとの間に温かい関係があったにもかかわらず、出自を知ると、介護を拒否する態度に変わった)

差別をすることで、それまでの良好な人間関係が断ち切れ、差別をした人も不幸になってしまう。だからこそ、根拠のないわさに流されず、その人自身を見ることの大切さを再認識できるエピソードでした。生まれ育った所がどこであろうと、高田さん自身はこれまでの高田さんにならないのです。

参加者からは、「差別をなくす・差別に勝つということは、自分の人生を自分のものとしてキラキラと輝かせること、そのためには一人で立ち向かうのではなく、時には差別から逃げたり、SOSを発したり、他の道を教えてもらうことが大切である」といった言葉が心に響きました。や子どもにも教える立場の教員だからこそ、正しい知識をもつことがとても大切だと思う。高田さんの思いをどう子どもたちに伝えるか、また、どうすれば「差別をしない」を言葉だけで終わらせないようになれるかを考えていきたい。などの感想があり、参加者全員が同和教育や人権・同和教育に対してこれらの自分はどうあるべきなのかを考える時間となりました。

高田さんの明るく、軽快な語り口調と差別に負けない強くしなやかな生き方に心を惹き付けられるとともに、部落差別は、絶対に許されない重大な社会問題であり、高松市民の一人ひとりから解決に向けて行動することの大切さを強く認識することができました。



## 人権作品展ほか

とき ところ

二〇一九年十二月四日(水)～十六日(月)

市内各地区コミュニティセンター

二〇一九年十二月五日(木)～十日(火)

I KODE 瓦町(瓦町FLAG八階)

二〇二〇年二月十八日(土)

サンポートホール高松大ホールロビー

幼児児童生徒の皆さんからのポスター、書写、作文及び市民の方からの人権メッセージの各部門、総数五一九点の応募がありました。

応募していただいた作品はどれも人権尊重の視点に基づき、人権の大切さを訴えてくれるものばかりでした。作品は、十二月の人権週間(毎年十二月四日～十日)に合わせて、市民交流プラザ(IKODE 瓦町)及び市内各地区のコミュニティセンターに展示し多くの市民の方々に御覧いただくことができました。

また、今年度は、サンポートホール高松大ホールで開催した「スマイルフェスティバルinたかまつ」においても展示を行うなど、より広く市民の方々への啓発に役立てることができました。

